

内水面ズームアップ

<第2回 モツゴのひとごと>

No.2 平成 15 年 12 月

千葉県内水面水産研究センター

〒285-0866 佐倉市臼井台 1390

TEL 043-461-2288 FAX 043-460-1340

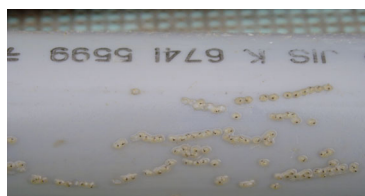
E-mail naisuiken@mz.pref.chiba.jp

展示室生まれのモツゴ*のひとごと



展示水槽で飼育中のモツゴたち

わたしたちは、研究センター内の展示室で生まれました。それは、90cm水槽にある薄暗いエンビの細いパイプ(直径 20mm)の中でした。きょうだいは、200尾ほど、体長は2~3cm、今年7月に生まれて5ヶ月になります。狭いところですが、元気で生活しています。



塩ビパイプに産み付けられ、ふ化直前の卵たち

両親は、印旛沼で育ちました。ある日、沼のあちこちに張ってある張網**に迷い込んでしまい、囚われの身となってしまいました。しかし、何とか子孫を残そうと、水槽の中で私たちを生んでくれました。とても感謝しています。また、私たちの面倒をみてくれた展示室の係のおじさんにも有り難く思っています。

わたしたちの泳ぎが、だんだん上手になり、力強くなっていくにつれて、お母さんたちのふるさとしてある印旛沼で自由に泳ぎまわることができたらいいなと思うようになりました。



印旛沼の面積は、千葉県で1番(11.55km²)大きな沼だということです。そこにはいろいろな仲間が住んでいて、魚の仲間は42種類ほど、えび・かにの仲間は4種類ほどいるそうです。

しかし、心配なことがあります。それは、印旛沼の水がなかなかきれいになっていないことです。平成14年度の有機物汚染の指標となるCODの数字が全国ワースト2位(9.1mg/L)になってしまったのです。



展示室の張網模型(右側が魚の入り口で、左側が袋網になる)

そして、最近になって大変なことがおこりました。利根川を介して印旛沼とつながっている霞ヶ浦で私たちの仲間のコイがコイヘルペスという病気でたくさんなくなったそうです。大変悲しく思っています。

そんなわけで、印旛沼で自由に泳ぎまわりたいという気持ちが、だんだんと薄れて

きて、もう少し展示室の狭い水槽で我慢しようかと考え直しているところです。

* 俗称クチボソ、口は小さく、やや上向きについている。体側には1本の黒い縦条があるが生息環境等でないものもある。産卵期は4～8月頃、ヨシの茎やこぶし大の石の表面に卵を生みつける。オスは産卵場所を掃除したり、卵についたゴミなどを除いたりして保護する。このような習性から「持つ子」(モツゴ)と呼ぶようになった。

* * 張網: 陸側から沖に向かって「はしり」と呼ばれる導網があり、その先に袖網と袋網がある。長いものでは袖と袋の部分で約40mあり、袋網は口の方から目合が小さくなり、数ヶ所に「逆し(かえし)」がある。先端には「尻土(しど)」があり、ここに魚が溜まるようになっている。魚種としてはコイ、フナ、雑魚等何でも入る。